

児の入院に対する母親の心理的反応の推移

中 村 孝 (静岡県立こども病院)
大久保 俊 夫 (")
北 野 市 子 (")
成 島 澄 子 (")
岡 村 暁 美 (")
荒 井 留美子 (")
内 藤 キ ヨ (")
保 住 幸 子 (")
黒 木 久美子 (")
金 田 早 苗 (")
大 橋 祐 子 (")

はじめに

小児の入院という事態は、それが急性疾患であっても、予定された外科的手術であっても両親の心配は非常に大きなものである。家庭内の出来ごとの中でも重要なものとなろう。小児の入院という非常事態に際してみられる母親の心の動揺、不安が退院時までどのように解消され、母親がどのように成長してゆくかを調べるのが本研究の目的であったがアンケートによる研究では設問の吟味が十分でなく、鮮明な成績は得られなかった。また2年目の研究として小島教授による母子関係検査法による調査を開始した。

I. 入院時・退院時のベア解答の検討 研究方法及び対象

32の設問項目からなる同じアンケート用紙を児の入院時と退院時に母親に記入してもらい、その両者を検討する方法によった。

対象は感染病棟と外科系幼児病棟にした。入院期間が比較的短かく、入院期間中に病状の変化が大きい病棟である。また、未熟児、新生児病棟に入院した乳児の母親に対しても設問を行った。項目は感染病棟、外科系幼児病棟と共通のものに、未熟児、新生児室専用の項目を加えた36項目である。

入院時、退院時の解答をベアで得られた症例は感染病棟22例、外科病棟27例で計49例である。この49例について検討を行なった。未熟児病棟

では21例の解答が得られたので、これは別に集計を行った。

設問は項目毎に、全然あてはまらない、少しあてはまる、かなりあてはまる、全くその通りであるの四段階評価となっているので、0点から3点までの評点を与え、各項目毎の平均値と標準偏差を求めて、入・退院時の差を検定した。

研究成績

a. 病気・障害について

「この子の状態が心配でしょうがない。」は(表1)入院時2.06で、退院時には1.41となつて、0.1%の危険率で有意に減少している。その傾向は感染病棟で著しく、外科病棟ではやや劣る。これは外科病棟には、そけいヘルニア、股関節脱臼、斜視など生命の危険が少ない小児が入院するからである。未熟児室も外科とほぼ同じ傾向を示す。このようにして、他の項目をみると(表2)、「この子が助かるかどうか不安である。」は低い評点で有意性がある。入院時に生命の危機は余り感じていないように思われる。「発育や知恵のおくれが心配。」は当然のこと乍ら、未熟児で高く有意性がある。「この子の入院を周囲の人に知られたくはない。」は入院時0.54、退院時0.48で低い評点であった。

b. 入院・分離不安について (表3)

「この子が寂しがっていると思うといてもたってもいられない。」は高い評点1.76を示し、退院時

も1.55と高かった。その傾向は感染病棟に強かった。「病棟に慣れるかどうか心配である」も全く同じ傾向を示す。病室で病児達が嬉々として遊んでいる様子を何度も見てもその心配は残っている。「病気がよくなれば早く退院させたい。」という気持ちは外科病棟に強い。未熟児が大きくなると退院させたいと思いはじめる。

c. 存在感・自信について (表4, 表5)

「この子にとって私は大切な存在である。」当然のことであろうが満点に近い値を示す。支持する人も高い点である。「育児に自信あり。」は入院によって変化は起らないが、「一人では育児に自信なし」が入院を機会にやや減少をみる。未熟児にあっては、退院時に自信なしは大きく減少し、自信ありが増加する。「この子がわずらわしく思えることがある。」は僅かではあるが存在し、退院時で減少する。内容は調査していないが、入院によるトラブルがあるのであろう。

d. 未熟児について (表6, 表7)

「この子を前にして気おくれを感じる。」が有意の減少であり、「この子にさわるのがこわい」も同様である。「この子は私を見ていると思う。」が退院近くなって増加してくる。「こんなに小さくて普通の子になれるか心配だ。」「妊娠中のことが何か悪影響を与えているのではないかと心配だ。」は共に入院時の高い評点から退院時には減少する。医師や看護婦との交流がうまくゆき、無駄な心配が減少したとみるべきであろう。

小 括

入院というものの母親への影響は入院児の病状、年齢などにより差があるのであるが、一般に、入院は大変心配なものであり、一つのショックである。然し、その心配、そのショックは、生命が助かるかどうかにあるのではなく、親を離れて入院する分離不安が大きな因子であり、入院に関する社会上の、生活上の問題、煩わしさも関与していると思われる。入院により、育児に対する自信は強められてゆく、少くとも自信なさは減弱してくる。特に未熟児の母親では、自信はゆっくりと醸成されるものであるらしい。一日も早く退院させたい気持ちは入院期間中つづいているが、一方では、完全に安心というまで置いて欲しい気持ちも

つづくらしい。

II. 母子関係検査

研究方法 及び対象

小嶋氏らが作製した母と子の因版を用いた。この因版は白色板に小児の姿態がグレーの軀幹と線の四肢、顔面で画かれており、(11枚ある)、小児の一つの姿態について、8枚(表裏16図)の母親カードより1枚を選択して適当な位置におき、「お話し」を作るという形で検査をすすめるものである。

この検査法を入院中の小児及び母親に施行してみようというのが今回の目的であるが、コントロールとして健康な小児と母親についての検討を先に行なった。

対象は幼稚園、小学校低学年に通園登校中の健康小児をもつ母親、幼稚園38名、小学校59名、計97名と、小学校1, 2, 3年の学童60名である。

研究成績 (被検者母親)

小児のポーズ11枚の図版から6枚選んで用いた。それぞれの小児の姿態に対して選ばれた母親カードは表8の如くである。

例えば、こどもが転がっている姿態には、母親が手をさしのべている(母親カード2番, M-2)(図1)、及び母親が走っている(母親カード5番, M-5)(図2)が選ばれることが多い。

M-2を選んだ母親は例えばこのような話を作る。「だだをこねている。でお母さんが説得している。いつまでもそうしているならお母さんは知りませんという。しばらく放っておいて様子を見て、泣き止んだら抱いてあげる。」

M-3を選んだ母親は例えば次のような物語りを作る「こどもがすべって転びました。だいじょうぶかしら、早く起きなさい。けがを調べる。大きなけがをしなくてよかったね。こどもを抱いてあげる。」

下を向いて石を蹴っている子どもの姿態(C-6)ではM-2, M-8などがよく選ばれる。C-6-M-8例ではこのような話が出来ている。「お使いに行って、お金を落してきて、お母さんと一緒に探しに行ったが無かった。これからは気をつけるのよ。それでもこどもはしよんぼりしている。

この次はお母さんと一緒にお使いにゆく。」

異常配置とは、母親カードが白板外におかれる、横向き、斜めにおかれるなど正対していない場合である。

a. 小児の姿態別母児間の距離 (表9)

どのカードが選ばれたかを問わず、まとめてみると、小児の姿態に対する母親カードの位置は3群に分かれ、推計学的に有意である。即ち、ひっくりかえっている、両手をあげて走っているような活動的な場面では母親は遠く離れて立つという傾向が明かである。

b. 母親の姿態別母児間の距離 (表10)

児の姿態程明かではないが、推計学的に、遠位と近位に分けることが出来る。胸に腕を組む、首を曲げて立つ、走り寄ろうとするが近位にあるが、今後の検討が必要であろう。

小 括

これはコントロールにとつた、健康小児の母親について検査のみである。ペアとなる児側の反応、入院病児及びその母親の反応は今後の検討項目である。

おわりに

小児が入院するような病気になることは家庭にとって大きな出来事である。然し、それは避けて通ることが出来ないことであり、入院を契機に母の自信が深められてゆくことはその子の一生に決してマイナスではないであろう。われわれは本当の母性愛を育てるためにはどうすべきかを絶えず考えておくことが必要である。母の不安を解除するために入院中のこどもを甘やかすのであってはならない。母親の心理の推移を正しく捉えて、小児の入院のあり方を考えるのが小児科のつとめであると思う。

表1. 病気・障害

この子の状態が心配でしようがない。

n = 49 入院時	2.06 ± 1.02
退院時	1.41 ± 1.03 *** (p < .001)
外科病棟	1.74 → 1.37 ***
感染病棟	2.45 → 1.45 ***
(未熟児病棟)	1.76 → 1.38 ** (p < .01)

表2. 病気・障害2.

設 問	入院時	退院時	病棟	入 院	退 院	検 定
この子が助かるかどうか どうか不安である	0.71	*** 0.42	感	0.95	0.50	***
			外	0.50	0.38	
			未	0.95	0.20	***
この子の状態がよく 分からない	0.96	0.83	感	1.00	0.95	
			外	0.93	0.70	*
			未	1.14	0.90	*
もっと早く気づいて いればよかった	1.16	1.22	感	1.55	1.68	
			外	0.85	0.85	
			未			
発育や知恵のおくれが 心配	0.63	0.63	感	0.73	0.64	
			外	0.56	0.63	
			未	1.81	1.19	***

表3. 入院・分離不安

設 問	入院時	退院時	病棟	入 院	退 院	検定
この子が寂しがっていると思うと いてもたってもいられない	1.76	1.55 *	感	2.09	1.45	***
			外	1.48	1.63	
病棟に慣れるかどうか心配 である	1.69	1.27 ***	感	1.77	0.90	***
			外	1.63	1.56	
病気がよくなれば早く退院 させたい	1.69	1.63	感	1.19	1.10	***
			外	2.07	2.03	
			未	1.43	1.90	
この子の世話にもっと参加 したい	1.61	1.57	感	1.82	1.46	*
			外	1.44	1.79	
			未	2.29	2.33	
入院してからこの子の存在が 遠くなってしまったように思う	0.27	0.14 **	感	0.14	0.09	
			外	0.37	0.19	

表4. 存在感・自信1.

設 問	入院時	退院時	病棟	入 院	退 院	検定
この子にとって私は大切な 存在である	2.90	2.86	感	2.95	2.91	
			外	2.85	2.81	
			未	2.86	2.76	
育児に関して支えてくれる 人がある	2.68	2.74	感	2.95	2.81	*
			外	2.46	2.69	
			未	2.55	2.60	
世話をしていると満足感が 得られる	2.31	2.33	感	2.50	2.64	*
			外	2.15	2.07	
			未	2.10	2.38	
育児に自信あり	1.71	1.78	感	1.82	1.86	
			外	1.63	1.70	
			未	1.05	1.48	

表5. 存在感・自信 2.

設 問	入院時	退院時	病棟	入 院	退 院	検 定
一人では育児に自信なし	0.82	0.69 [*]	感	0.64	0.59	* ***
			外	0.96	0.78	
			未	1.24	0.67	
この子のいることを一瞬忘れてしまうことがある	0.16	0.14	感	0.05	0.18	* *
			外	0.26	0.11	
			未	0.38	0.29	
この子がわずらわしく思えることがある	0.29	0.16 ^{**}	感	0.23	0.05	***
			外	0.33	0.26	
			未			
自分のやりたいことが出来なくて焦る	0.29	0.33	感	0.32	0.23	*
			外	0.23	0.41	
			未	0.11	0.16	















表6. 新生児・未熟児 1.

設 問	入院時	退院時	検 定
この子にふれてみたいと思う	2.62	2.48	
この子を目の前にして「気おくれ」を感じる	0.76	0.29	***
この子にさわるのがこわい	0.81	0.29	***
この子に母乳を与えることに不安がある	0.78	0.39	**
看護婦さんのように上手にはこの子の世話は出来ない	1.62	1.29	**
生まれたときから他人の手をかりずにこの子を育てたかった	1.71	1.48	**

表7. 新生児・未熟児 2.

設 問	入院時	退院時	検 定
この子は私を見ていると思う	1.65	2.10	***
この子の泣き声で何を要求しているのかが大体わかる	1.05	1.52	***
この子は私のもっている赤ん坊のイメージと違う	0.57	0.43	
こんなに小さくて普通の子になれるか心配だ	1.60	0.93	***
妊娠中のことが何か悪影響を与えているのではないかと心配だ	1.67	1.24	**

表8. カードの選択

母 \ 児	1. 	2. 	3. 	4. 	5. 	6. 	7. 	8. 	異常配置
1. 	7	2 3	1 6	6	2 4	9	1	1 1	(9)
2. 	6	3 4	3	9	8	1 3	1 4	1 0	(5)
3. 	1 6	1 2	9	3	4 3	7	3	4	(2)
4. 	9	3 0	1 1	1 5	6	1 1	3	1 2	(11)
5. 	4	2 2	1 8	1 6	9	1 4	8	5	(17)
6. 	1 0	3 0	8	1 2	1 1	7	3	1 6	(7)

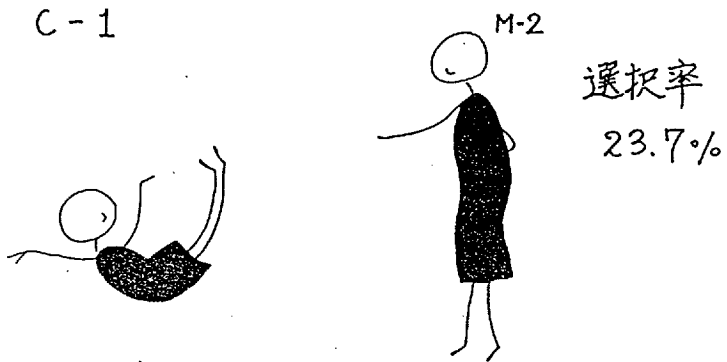


図1. C1-M2

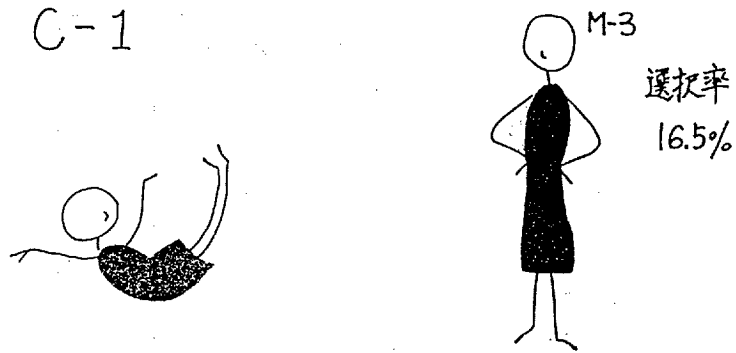


図2. C1-M3

表9. 児の姿態と母児間の距離















児のカード	距離	
1. 	cm 13.2	離れて 立つ
3. 	13.4	
2. 	12.5	中間
5. 	12.5	
6. 	12.6	
4. 	11.8	近く 立つ

表10. 母の姿態と母児間の距離

母のカード	選択回数	児との距離	
3. 	65	13.2	遠位
1. 	52	13.0	
2. 	151	13.0	
6. 	61	12.9	
7. 	32	12.3	
4. 	61	12.2	近位
8. 	58	12.2	
5. 	101	12.1	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

小児の入院という事態は、それが急性疾患であっても、予定された外科的手術であっても両親の心配は非常に大きなものである。家庭内の出来ごとの中でも重要なものとなろう。小児の入院という非常事態に際してみられる母親の心の動揺、不安が退院時までにはどのように解消され、母親がどのように成長してゆくかを調べるのが本研究の目的であったがアンケートによる研究では設問の吟味が十分でなく、鮮明な成績は得られなかった。また2年目の研究として小島教授による母子関係検査法による調査を開始した。